

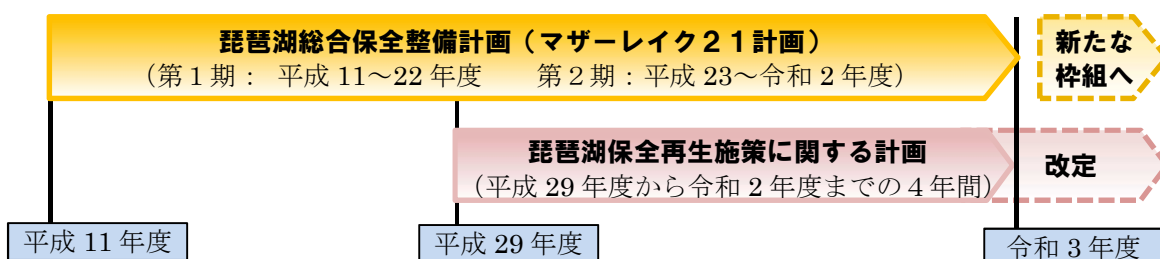
琵琶湖総合保全整備計画（マザーレイク21計画）の今後のあり方について（案）

1. 琵琶湖に関する計画の現状

平成27年に琵琶湖保全再生法ができたことを受けて、平成29年3月に琵琶湖保全再生計画を策定したことから、現在は、琵琶湖環境の保全に関する計画が併存する状況となっています。

琵琶湖保全再生計画については、必要な改定に向けて、今後、関係省庁等との間で協議を進めていきます。

マザーレイク21計画については、これまでの取組をふりかえるとともに、保全再生計画との重複を解消しつつ、これまでの取組をしっかりと継承できるような形で存続していけるよう、今後のあり方を検討していく必要があります。

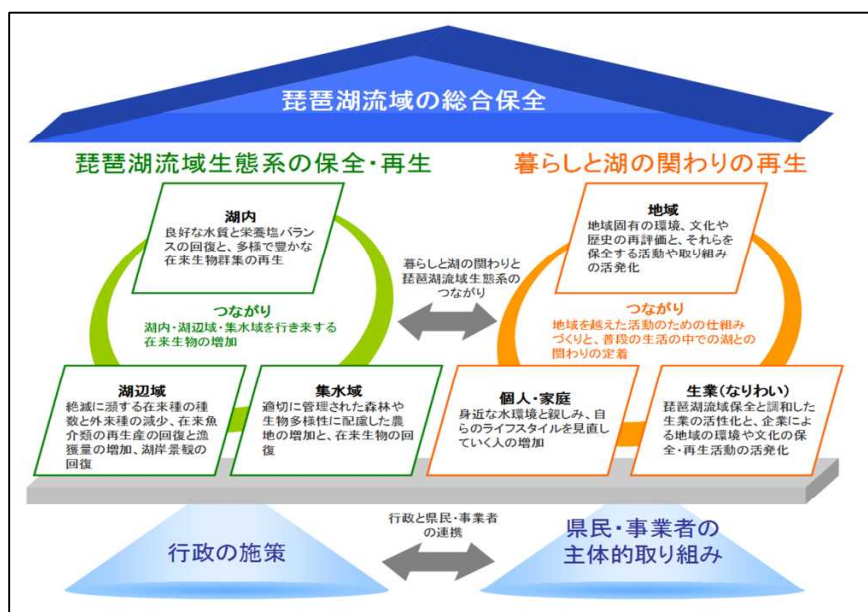


2. マザーレイク21計画によるこれまでの取組

マザーレイク21計画（第2期）では、「琵琶湖流域生態系の保全・再生」と「暮らしと湖の関わりの再生」を目標の柱に掲げ、「つながり」をキーワードに、行政施策の推進とあわせて、多様な主体の取組を後押ししてきました。

毎年開催してきたマザーレイクフォーラム「びわコミ会議」では、200名程度の参加者が琵琶湖との関わりを約束するコミットメントを宣言するなど、一定の成果をあげてきたといえます。

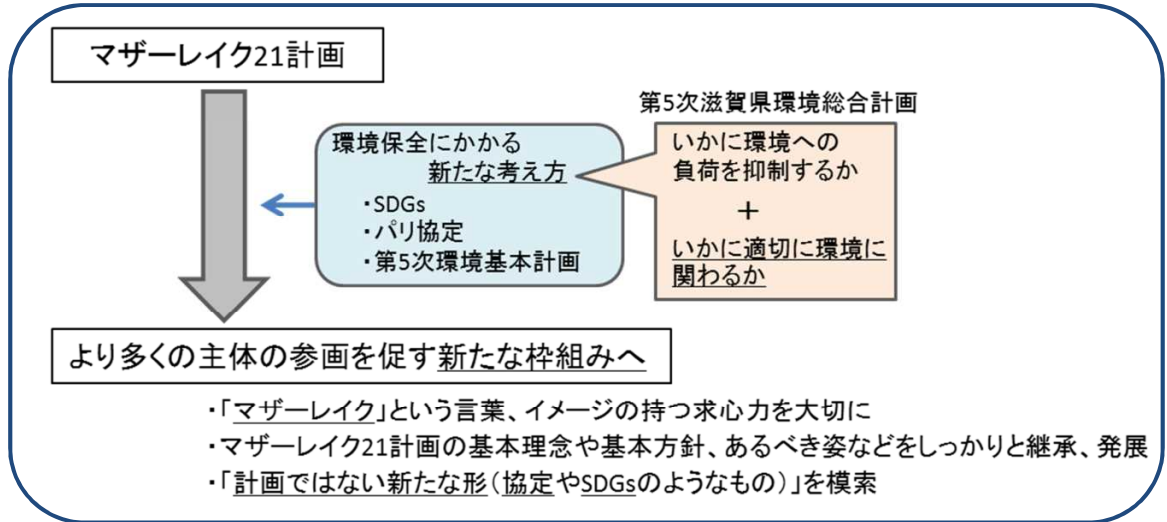
琵琶湖の課題解決に向けた取組を全県的なムーブメントとして拡大していくためには、下流域も含め、さらにより多くの多様な方々の参画が求められています。



マザーレイク21計画（第2期）の取組の方向性

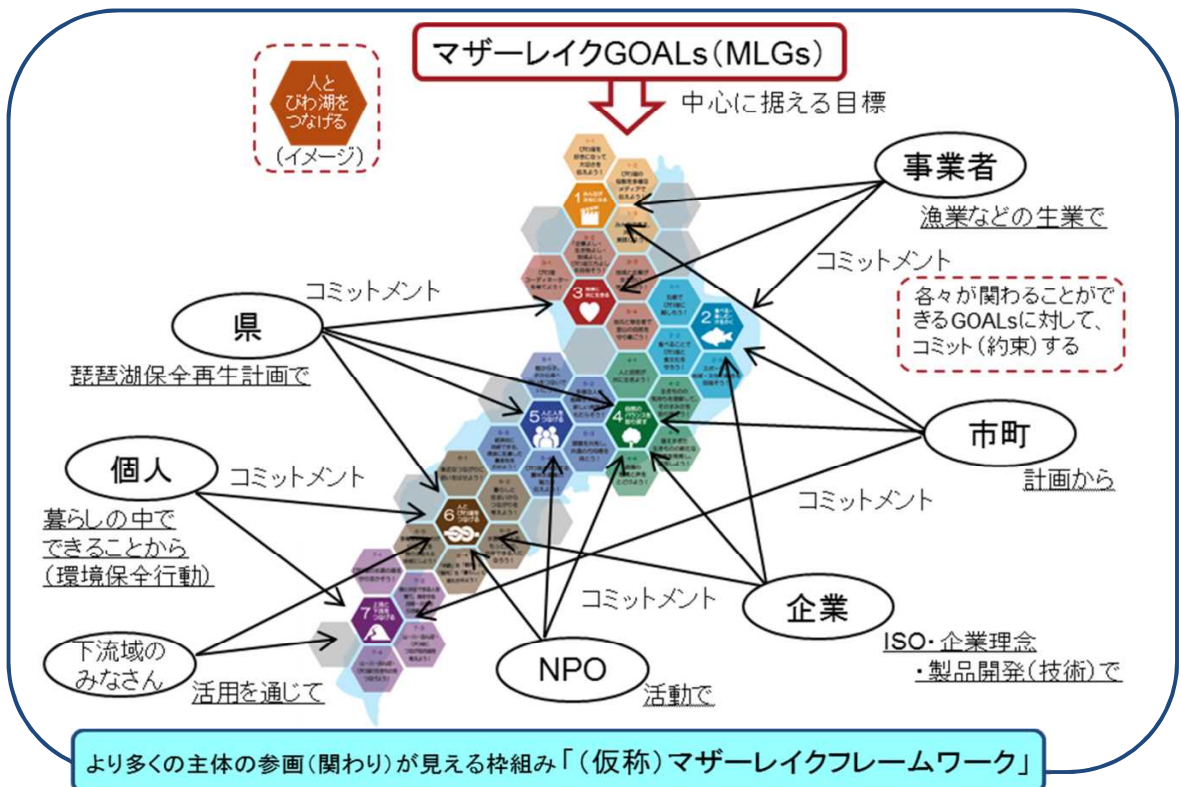
3. 今後のあり方の方向性

ますます複雑化・多様化する琵琶湖の課題を解決していくためには、県や市町による琵琶湖保全再生施策を推進すると同時に、「マザーレイク」という言葉の求心力やマザーレイク21計画の強みを生かしながら、環境に関する新たな考え方を取り入れ、より多くの主体が、積極的に琵琶湖の課題解決に関わることのできる、計画という形にとられない新たな「枠組み」を構築していく必要があります。



4. 「(仮称) マザーレイクフレームワーク」とは

「(仮称) マザーレイクフレームワーク」は、多様な主体による琵琶湖への積極的な関わりを目に見える形で推進していくための新たな「枠組」です。その「(仮称) マザーレイクフレームワーク」の中心には、琵琶湖環境の保全に向けた「守る」と「活かす」の好循環を創出するための目標「(仮称) マザーレイク GOALS (MLGs)」を掲げ、多様な主体はこの GOALS に対して「コミット (約束)」することで参画します。



◆マザーレイク GOALS (MLGs) の構成

マザーレイクフレームワークの中心に据えるマザーレイク GOALS は、琵琶湖環境の保全に向けた「守る」と「活かす」の好循環を創出するための目標であり、課題や分野ごとに複数の項目で構成したものです。

◆マザーレイク GOALS (MLGs) に向けた多様な主体の取組

多様な主体は、マザーレイク GOALS のうち、自らの活動と関わりのある GOAL にコミットします。例えば、水環境の保全に関する目標を GOAL とした場合、企業はその GOAL に対して、企業理念や製品開発を通じて貢献することなどが考えられます。

このように個別の GOAL に対する参加が可能な枠組とすることによって、より多くの多様な主体が参画しやすいものとなることが期待できます。

◆組織体制と進行管理

現行のマザーレイクフォーラムの仕組みを継承しつつ、より多くの多様な主体が参加できる場としての運営体制を整えるとともに、学識経験者や多様な主体による議論の場を通じて、琵琶湖の環境や暮らしの現状を把握する健康診断としての進行管理を行います。

県は一参画主体としてこの枠組に参加し、施策の実施を通して、GOALS の達成に貢献していくとともに、琵琶湖の健康診断にあたる指標のとりまとめを行います。

5. 今後の予定

今後、マザーレイクフォーラムにおける議論やワークショップ、環境審議会や県議会での議論等、より多くの主体との間で慎重かつ丁寧に議論を重ね、令和2年度末に、多様な主体が参加する場において、枠組であるマザーレイクフレームワークや MLGs を構築、策定することを目指します。

(参考) びわ湖との約束(びわ湖版 SDGs) 2019年度版 (※)

※これまでのマザーレイクフォーラム「びわコミ会議」において参加者から提示された意見をもとに、琵琶湖保全の取組の方向性としてまとめたもの。

